

炎症性腸疾患等 02b 対象疾患:潰瘍性大腸炎
【9902b】インフリキシマブ(潰瘍性大腸炎)
【投与スケジュール】

一般名	商品名	略号	投与量	1W	2W	3W	4W	5W	6W	7W
インフリキシマブ	インフリキシマブBS	IFX	5mg/kg※	↓		↓				↓以後、8週毎

(用量・用法)※潰瘍性大腸炎の場合

通常、インフリキシマブ(遺伝子組換え)として、体重1kg当たり5mgを1回の投与量とし点滴静注する。
初回投与後、2週、6週に投与し、以後8週間の間隔で投与を行うこと

【注射薬投与日のタイムテーブル】

滴下順	薬品名	用量	投与時間
Day1			
①	生理食塩液 100mL	1本	ルート確保用
②	インフリキシマブ BS	5mg/kg	2時間
	生理食塩液 250mL	1本	
③	生理食塩液 50mL	1本	5分(ルートリンス)

※レジメン設定上の Interval は 2 週で設定

<レミケード>
インラインフィルター(1.2ミクロン以下)を使用すること

組織傷害性	インフリキシマブ BS: 非炎症性(明確な基準なし。メーカー回答)
-------	-----------------------------------

【注意事項】
(インフリキシマブ BS)

他の注射剤、輸液等と混合しないこと(ブドウ糖注射液等の汎用される注射液でも配合変化が確認されているため)
溶解後3時間以内に投与開始をすること

原則、2時間以上をかけて緩徐に点滴静注すること。

なお、6週の投与以後、それまでの投与でinfusion reactionが認められなければ、点滴速度を上げて点滴時間を短縮することができる。ただし、平均点滴速度は1時間当たり**5mg/kg**を投与する速度を超えないこと(臨床試験において投与経験がない)。

また、点滴時間を短縮した際にinfusion reactionが認められた場合には、次回以降の投与では、点滴時間を短縮せずに投与すること

レジメン登録承認	2017年10月24日 化学療法委員会
参考資料	平成28年度改訂版「潰瘍性大腸炎・クローン病診断基準・治療指針」厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」(鈴木班)平成28年度文旦研究報告書 別冊